

# 平成25年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を養い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的 社会人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価	
年度目標				年度評価（月日現在）				実施日	平成26年1月29日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	平成25年度から進学重視型単位制高校に移行した。3年間を見通した計画的な進路指導の成果として、この数年間で生徒の進路実績が向上しており、今後も生徒の進路希望実現のため、学習意欲の向上と大学受験に向けた早期からの取り組みを進める事が求められる。	確かな学力の育成と授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学重視型単位制の教育課程の改善と充実</li> <li>生徒アンケートの分析、ニーズの把握と改善策の策定</li> <li>授業改善に向けた情報の共有化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数展開授業を保障する学習環境を計画的に検討し整備する。</li> <li>全体の65%以上が「授業がわかりやすい」と感じる。</li> <li>授業研究会、合同授業研修会等を活用と積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程特別委員会により十分な検討がなされた。</li> <li>生徒アンケートによれば「教え方が工夫されていて授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は49.2%であった。</li> <li>9月27日に授業公開を実施したほか、市教委の先進校視察にも参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に積極的に取り組み、学力向上に意欲的な生徒の割合を向上させ、教職員も常に授業を改善していく努力を続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度からの進学重視型単位制への移行が、円滑に行われているのか注目している。始業が10分早まり、55分授業になったことで、その影響や効果を慎重に分析するとともに、部活動への影響があるのかも意見交換すると良い。</li> <li>授業の分かりやすさについては、中学校でも同様の調査を行っているが、やはり評価は厳しい。数字に左右される必要はないが、貴重な意見と受け止めて欲しい。本日、授業参観させてもらったが、教員も生徒も熱心に取り組んでいたと感じている。</li> </ul>	
		進路希望実現に向けた計画的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報の的確な伝達</li> <li>オープンキャンパス等への参加奨励</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け、保護者向けのガイダンスを計画的に実施する。</li> <li>延べ450人以上の参加者数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部により生徒・保護者向けの説明会が企画された。</li> <li>オープンキャンパスには、ほぼ全員の生徒が参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら進路を考える力を引き出す工夫を、計画的に行う。</li> <li>個人面談の時間確保を希望する生徒が多い。</li> </ul>		
2	国際理解教育は、学校行事や国際交流事業等で幅広く実施されており、生徒も貴重な体験をする機会となっている。今後も本校の教育活動の活力となるよう、継続的な推進が必要である。	体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣事業の積極的な活用</li> <li>社会探検工房、SPP、海外研修旅行等の事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員への報告と事業成果の活用。</li> <li>修得単位認定に向けた内規の整備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NZ姉妹校との交流、社会探検工房・SPP・海外研修旅行も安定的に行われ、「総合学習」での単位認定が認められた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>85%以上の生徒が体験学習が充実していると感じており、今後も継続させる。</li> <li>体験活動への参加が継続的になされるよう、指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室等の整備について、ホールの建設は実現しなかったとのことだが、今後も様々な面で学校環境の充実を望む。</li> <li>校則について生徒に多様な意見があるようだ。ある意味では健全なことであり、今の気持ちを良くきっかけにして欲しい。</li> <li>保護者の率直な意見としては、服装が指定されるのは歓迎している。</li> </ul>	
		学校行事及び課外活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動指導体制の充実と積極的な参加指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動人数、活動状況を把握し、全体の部活動加入率が85%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率は92%を超えている。（4月調べ）</li> <li>生徒アンケートによれば、約90%の生徒が学校行事に充実感をもっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒が、部活動が盛んであると考えており、学校全体の活気を感じることができる。</li> <li>学校行事への生徒の自主性と、規律・モラルの問題との均衡を考える。</li> </ul>		
3	近隣の小中学校や自治会との連携を積極的に行っており、本校に対し地域から一定の信頼をいただいている。今後は本校教育活動への理解をさらに深めていただくために、より一層の地域に開かれた信頼される学校づくりの推進が求められる。	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進</li> <li>本校教育方針の積極的な発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月曜チャレンジ、ジュニアインタープリター等の事業報告を共有して連携意識を高める。</li> <li>HPの積極的な活用を進め、的確な情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月曜チャレンジ、ジュニアインタープリターの参加率が昨年度より増加するなど、地域との連携を深めた。</li> <li>HPの更新が積極的になされ、一層充実した内容をめざした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携事業が継続的に行われ、いっそう連帯を深められるよう努力する。</li> <li>HPの運用に十分配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の小・中学校との連携した活動が継続して行われており、今後も同様に運用されることを望む。</li> <li>朝の立哨指導は、保護者として心強く感じており、感謝している。</li> <li>震災時などにおいて、高校生の協力・支援は必須である。ボランティアとしての活動を期待している。</li> </ul>	
		安心・安全な学校環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数授業に対応する教室環境の整備推進</li> <li>登下校時の交通マナーアップ指導の充実</li> <li>規範意識を向上させる生徒指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程特別委員会と連携し、開講講座数等を計画的に進める。</li> <li>登校指導を計画的に実施し、生徒のマナー意識が高まる。</li> <li>学年や教科担当など、全体で指導する体制を作り、生徒の規範意識に向上が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程特別委員会、各教科・学年が連携し、開講講座の検討を綿密に進めた。</li> <li>登校指導を拡充し、交通マナー、服装の指導を徹底した。</li> <li>生徒指導部を中心として、安全な登下校や、正しい服装に対する生徒の気持ちを喚起させた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の実現のための環境整備を一層進める。</li> <li>登下校のマナー・服装など、改善の傾向がみられ、アンケートの結果では、生徒の意識も高まっているが、一方、校則に妥当性を感じない生徒も増加している点に留意する。</li> </ul>		